

# 課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組 1 〕 医師・歯科医師を対象とした事業  
 ( 1 ) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成  
 臨床医学教育・研究領域

整理番号	5
------	---

申請担当大学名 ( 連携大学名 )	京都大学
事業名	京大で臨床研究力 / 医学教育力を強化する！
事業責任者	大学院医学研究科長 湊 長博

## 事業の概要

本事業では臨床医の臨床研究デザイン力と臨床医学教育力の開発を目指し、その強化プログラムを構築する。臨床研究分野では、臨床医を対象に、臨床研究デザイン学を始め、疫学・統計学・医療倫理・医療経済などのコースを提供する。疾病の診断・治療、患者 QOL など現場の問題解決に直結するエビデンスの創出とともに、臨床研究マインドに基づく観察力と思考力を備えた診療力の高い次世代臨床医を養成する。臨床医学教育分野では、指導医を対象に、医学教育学の主領域であるカリキュラム開発法・教育法・評価法のコースを提供する。医学教育学のエビデンスを引用し、現場の医師との対話を大事にし、ニーズにあった教育環境を構築できる指導医を養成する。両プログラムは組織マネジメント能力の涵養を共通基盤とする。また、診療に従事しながら受講できるよう、遠隔教育と京都大学での参加体験型学習を組み合わせ、電子ポートフォリオによる学習サポートも実施する。

推進委員会からの主なコメント : 優れた点等、 : 充実を要する点等

我が国の臨床医療、医学教育の重要課題である「臨床研究」「臨床医学教育」に対し、これまでに京都大学が積み上げてきた研究・教育・臨床の実績と文脈に基づき、かかる課題を解決するにふさわしい能力(臨床研究デザイン能力、臨床医学教育力)の醸成を目指した教育プログラムとして期待される。

近年の医学教育の動向、医学教育理論に基づいて、我が国の医学教育領域において弱点とされる「リーダーシップとマネジメント能力」に着目し、その開発に資する指導体制・教育内容、電子ポートフォリオ、遠隔教育などの新たな ICT 教育手法の活用などが企画されており、新規性と効率性を備えた卒後医学教育プログラムと評価される。

本申請書は、医学教育理論や教育手法に基づいて、事業の全体構想事、概要、達成目標、実施体制、連携体制を中心に綿密に検討され、企画された申請内容も充実し、本事業の趣旨にも合致している。臨床教育デザイン力の開発は独創的である。

教育の中に臨床研究の視点を入れたすばらしいプログラムを提案していることや、国際的な展開を示唆していること、医療におけるアウトカム研究の重要性をうたっていることが評価できる。

電子ポートフォリオは新たな学修・評価ツールとして既に全国的に開発が進められているが、そのシステム標準化・運用面において多大な人的、経済的、時間的負担が必要とされることから、他大学にも普及できるようなシステムの構築と、実効性のある取組が望まれる。

「臨床医学教育力」、「臨床研究デザイン力」の強化は極めて大切な課題であるが、学修対象が卒後 5-15 年あるいは 8 年以上の医師を予定しているが、プログラムの実行に際しては、履修者が受講しやすい環境整備や運用方法等について工夫が必要ではないか。

臨床医学教育コースについて、教育者資格取得や新しい評価法の開発などリーディング大学にふさわしい取り組みがあってもよいのではないか。